

川内原発再稼働阻止！ 6月13日、鹿児島 薩摩川内へ！**§ 1. 「原子力規制委」への抗議行動をステップに、川内現地行動へ！**

■川内原発（鹿児島県）の優先審査を決めた原子力規制委員会は、5月16日、関西電力高浜原発3、4号機（福井県）の優先審査の方針をも打ち出した。こうした原発再稼働へ向けた、大きな動きが公然化する状況下で、私たちは、事実上、再稼働を認可する機関である「原子力規制委」（菅義偉官房長官は「規制委の安全基準がすべて」と公言している）への抗議行動に、エネルギーを集中している。

■4月26日、27日に京都で持たれた「再稼働阻止ネットの全国相談会（合宿）」では、再稼働一番手と名指しされている川内原発現地の闘いに、全国から駆け付けて支援し共闘していく方向を確認するとともに、対・規制委全国一斉抗議行動への取り組みのプランが練られた。東京の原子力規制委・規制庁に「川内原発再稼働やめろ！」の声を全国から集中するとともに、原発立地にある原子力規制事務所への抗議も、各地で同時に取り組み、「規制委」批判の声を、広く、力強く拡大する行動である。

この行動は5月13日、東京・六本木の規制委まえ抗議行動と、泊・青森・福島・横須賀・浜岡・柏崎刈羽・志賀・敦賀・島根・伊方・玄海・川内・大洗の13カ所の原子力規制事務所への抗議行動

◇天野恵一（再稼働阻止全国ネットワーク事務局）

が呼応するかたちで、文字通りの全国一斉行動が作りだされた。

■私たちはこの行動を踏まえて、5月29日に参議院議員会館で、「川内原発再稼働阻止」を掲げた対・規制庁院内交渉・院内集会をつくりだした。院内交渉はこれで三回目である。基準を満たしても安全とはいえず、シビアアクシデントは起きうるという前提から「安全基準」の名称を「規制基準」に変更したと開き直っている規制委に対し、火山・地震の判定基準のインチキを具体的に問題にし、問い詰め続けた。

川内原発の評価は、安全性を科学的・技術的見地から認定しているのではなく、＜原子力カムラ＞の経済的利害に基づく政治判断（九電王国の地域支配下でやりやすい）の結果であることは、あまりにもミエミエである。福島原発事故などなかったかのごとき規制委の姿勢を目の前にして、会場を埋めつくした参加者も、呆れ、あらためて怒りの声を叩きつけていた。

■私たちは、こうした規制委抗議行動の積み上げをステップに、川内現地の行動に合流する。

再稼働を絶対に許すな！

<< 鹿児島県 川内原発 ストップ再稼働！ 6.13（金）鹿児島県庁へ！ >>

12日（木）18時半～20時：県庁前 記者会見と集会（呼びかけ 川内原発動かすな！東日本決起集会実行委員会） | 13日（金）9時：県議会包囲行動（呼びかけ 現地実行委員会） 14時半：全国相談会（呼びかけ 再稼働阻止ネット） 19時：懇親会 | 14日（土）（8時 宿舎発⇒川内駅へバスで移動）9時半～11時半：川内原発ゲートまえ行動（抗議文提出など）（呼びかけ 再稼働阻止ネット） 13時：鹿児島空港（解散）※東京から出発するツアーの受付は終了しましたが、「川内原発を動かさない現地行動への寄金」の願いを継続しています >>> <http://bit.ly/1pFemEi>

郵便振替口座：00190-3-513501 口座名：川内原発再稼働を許さない共同行動

川内原発を動かさない現地行動への寄金のお願い

—— この寄金は鹿児島・川内現地行動に参加する人々を財政面から支えるものです ——

2011年3月11日東電福島第1原発大事故以来、停止している各地の原発が再稼働させられようとしています。その最初に予定されているのが、九州電力川内原発です。私たちはこうした動きを許してはならないと思います。推進者は民主党政権に取って代わった自公の安倍政権です。彼の原発再稼働の目論見は、原発の安全性を全く無視したものです。「原発の安全性」については、誰も責任を負わないが、「再稼働だけは断固行う」ということです。

国会における多数派であることだけを当てにした安倍内閣の、TPP、集団的自衛権問題等を含めての余りにも粗雑で強引な政権運営は、憲政の常道を踏みにじるものです。

今ここで、川内原発の再稼働に対して「ノン」という国民的行動が欠かせません。私たちは自らの行動によって再稼働に反対し、再稼働を阻止したいと思います。

皆様には、度々にわたりご支援を賜り心苦しい限りですが、ご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。

川内原発再稼働反対現地行動への寄金

寄金振込口座名 郵便振替口座：00180-3-513501

口座名：川内原発再稼働を許さない共同行動

他銀行からの振込用口座番号：

ゆうちょ銀行 ○一九店 当座：0513501

(特別の場合を除き、必ず郵便振替か銀行振り込み等をお願い申し上げます)

2014年5月5日

川内原発動かすな!東日本決起集会実行委員会

§ 2. ◆原発現地から◆ 再稼働阻止！6.13 鹿児島県議会抗議行動へ結集を！！

いまや全国の課題となり全世界からも注目されている川内原発の再稼働問題をクローズアップ！！

◇川内原発（鹿児島県） ●松元成一（かごしま反原発連合有志 副代表）

■大飯原発の「再稼働は認められない」という福井地裁判決が出ました。樋口裁判長は「原発の稼働は、憲法上は人格権の中核部分よりも劣位する。具体的危険性があれば、差し止めが認められるのは当然。大飯原発には1260ガルを超える地震は来ないと確実な科学的根拠に基づく想定は本来的に不可能。」とした上で、同原発の安全性について「確たる根拠のない楽観的な見通しのもとに初めて成り立つ脆弱なもの」と論拠したのです。

この判決に私たちは大変勇気づけられています。判決から言える事は、如何に基準地震動を操作しようとも、活断層の有無を論じようとも、火山活動の危険性について考えようとも、何らかの起因がある原発の危険性は事実であり、人々の生活（人格権）を脅かす再稼働は認められないという事です。この事は、日本の全原発に共通します。ですから、川内原発再稼働もあってはならないことなのです。

5月30日、鹿児島地裁に川内原発再稼働差し止め仮処分申請をしています。鹿児島地裁も賢明なる（人格権を最優先にした）判断をするのが流れでしょう。原発マネーよりも人間の生活や地球環境の継続性を尊重する考え方が貫かれると信じています。

■鹿児島県川内原発周辺は自然状況は過酷です。九州の東側に位置する東シナ海には、甕島（こしきじま）列島と薩摩半島の間には無数の活断層が認められ、更に日本最大級の断層系である中央構造線も延びているのです。これだけでも地層の活動

による大地震が予想されます。又、それだけではなく南九州は世界有数の火山地帯であることも無視できません。五つの巨大カルデラのひとつ、始良カルデラは2万6千年前に巨大爆発し火山灰は遠く北海道や朝鮮半島にも達したとされ、火砕流の痕跡は川内原発の至近に現存しています。

3月に九州電力は、安全基準審査会合で川内原発の基準地震動を620ガルに引き上げ、規制委員会は審査がほぼ終了したとしました。でも、この数値は妥当なのでしょうか。2008年6月の岩手・宮城内陸地震では一関市で4,022ガルを計測しています。前記の様な環境がある川内原発で予想される数値が低いとは考えられません。

■一方、そんな状況は無視して伊藤県知事は「6月県議会で判断したい」と言います。県民として猛烈に怒りが湧いています。しかも、まともな避難計画も作れていないのです。

福島第一原発の事故究明は全くされず、放射能は拡散したままです。誰も責任をとっていません。福島の被曝した多くの子どもたちを見捨てました。避難している14万人の方々への責任も放棄しています。

■連続した全国からの再稼働阻止の現地行動に結集に感謝します。闘いは続きます。鹿児島で再稼働を一番に止めましょう。引き続き鹿児島に大結集して声をあげましょう。子どもたちの未来のために。

「6.13 県議会まえ 県知事・県議会 抗議行動」

6月13日（金）朝9時 鹿児島県庁（鹿児島市鴨池新町10-1）

「6.14 川内原発ゲートまえ抗議行動」

6月14日（土）朝9時 九州電力 川内原子力発電所ゲート前（薩摩川内市久見崎町1765-3）

「県民の生命を守る避難計画がない中での川内原発再稼働に反対する緊急署名」

<http://kagoshimashukai.chesuto.jp> 連絡先：松元成一（090-1125-3481）、岩井哲（070-5493-6153）



§ 3. ◆現闘の地から◆ 川内原発再稼働阻止！6月13日 鹿児島県庁へ

◇川内原発（鹿児島県）●岩下雅裕（「川内の家」）

■川内原発が3月に再稼働トップバッターに名指されたことは、再稼働阻止の闘いをいくつかの面で転換させた。1つは適合審査を川内にしぼることにより、規制委の仕事が加速されたことであり、他の原発は九州電力に倣えばよいと示唆されたこと。2つ目は、鹿児島県の人々の関心が川内の再稼働に集中し、世論の潮目が変わったこと。そして全国原発現地と反原発戦線で、「まず川内に力を集中し、再稼働を阻止せねばならない」という共通認識が生まれたことが第3だ。

■『南日本新聞』（5/5）は、再稼働反対59%、賛成36%という鹿児島県内の世論状況を示した。それ自身、大差と言えるが、昨年比で反対が3%増、賛成が3%減というトレンドが重要だ。潮目の変化である。しかも注目すべきことは、再稼働の同意（＝拒否）権に関する質問に対し、県と薩摩川内市に限るという意見は7%強に過ぎない。逆に「地元を設定するのはおかしい」という意見が28%にのぼる。そこには放射能被害が広範で甚大であることの認識がある。また再稼働への判断はすべての人々に権利がある、という民主主義の主張が顕著だ。

■いま全九州で、事故の結果として強制される避難の問題がフォーカスされている。原発事故の際、はたして住民が安全に逃げられるか、生活できるかという問題だ。避難元と避難先の自治体に質問票を送り、ヒアリングを行うと「机上の空論」以前の実態が浮かび上がる。もっぱら自家用車を使う避難渋滞は最大28時間に及ぶ、というのが県のシミュレーション結果だ。避難所1人当たり面積は2平方メートル弱。そもそも受け入れ自治体には予算さえなく、長期にわたる避難生活の維持はおぼつかない。要援護者の避難計画はほぼ「0」である。

■事故の原因の面でも、電力会社の対策の遅れがクローズアップされた。薩摩川内市の特別委員会に呼ばれた九電の副社長が証言した。「地震対策の工事は未着手。いま現行設備や建屋の強度シミュレーション中だが、その完了の目途がたってい

ない」と。これは規制委の歓心をかっ、基準地震動620ガルに対応する工事のことだ。九電が主張するように川内原発に火砕流が到達するようなカルデラ噴火は数10万年に1度のことかもしれない。しかし基準地震動を超える地震は、10年弱で5回も発生していた（福井地裁判決）のに、である。

■6月13日、私たちは鹿児島県庁・県議会への一大抗議行動を展開する。6月議会の開催日に合わせたこの大衆行動は、はなから再稼働への同意を公言している知事に抗議し、その前段に位置する議会の同意を阻止するためだ。議会傍聴席を埋めつくし、知事や議会各会派への申入れを行う。傍聴席のみならず、議事堂や県庁内でも大衆的に無言の圧力をかける予定だ。事前の議員アンケートで、自民党と公明党の議員はそろって「（再稼働の是非は）判らない」と答えた。広範な反対の意志を判らせてあげる必要があるだろう。

■九電が「工事は6月中に終わる」と言っていたのは、津波と火災の対策だけであった。地震対策工事は、関電が大飯原発について述べたように（4/20『朝日』など）、年度内を要するかもしれない。私たちは、ほとんど原発を作り直すような工事をやるくらいなら、さっさと川内原発を廃炉にしろと主張する。また九電のデータの隠蔽や捏造を許さない。

本格的な川内原発再稼働阻止の闘いは、6月13日から始まる。ぜひ、全国から一大結集を。



§ 4. ◆現闘の地から◆ 大飯判決の衝撃と新たな流動

◇伊方原発（愛媛県）●八木健彦（「伊方の家」常駐スタッフ・経産省前テントひろば運営委員）

<大飯判決の衝撃と新たな流動>

■5月21日、歴史的な大飯判決はこの地にも大いなる衝撃をもたらした。長年、伊方原発に反対して闘ってきた人たちは涙を流すほどに感動をもってこの判決を迎え、多くの人たちに新しい勇気を与えている。2月に提出され、3月議会で継続審議となった「伊方原発を再稼働させないことを求める請願」の取り扱いについて、5月26日に開催された総務委員会で、「大飯判決という新しい事態の下で、特別委員会でこの判決を受けとめて全議員の意見表明を求める」ことを決定し、その上で再度協議することを決定した。（なおこの日、「特別秘密保護法の廃止を求める請願」については賛否同数→委員長決裁で採択を提案することを決定した。）折しも、八幡浜市では請願の6月議会での採択を求める署名活動が繰り広げられているさなかであった。

<伊方の地震評価問題と規制委人事案>

■大飯判決が地震問題で電力会社に厳しい指弾を行ったその時、四国電力が目論んでいた基準地震動を570ガルから620ガルへと川内と同基準に引き上げて規制委との辻褄合わせをするという姑息な策動は破綻し、さしあたり伊方原発の再稼働策動は後退を強いられている。（もっとも伊方原発現場では四電は緊急時対策等、再稼働に向けた諸々の工事を急ピッチで展開している。そのため毎月11日のゲート前行動のたびに現場の様相は変わっている。）そこへ規制委をめぐる今回の露骨な人事案が浮上した。この人事案は原子カムの完全復活と、なかんずく原発再稼働の最大の弱点・難点である地震問題を無視して突っ走ることを宣言するものである。当地では3月14日の伊予灘地震によって南海トラフや中央構造線による巨大地震を否応なく意識させられ、地震による原発の過酷事故、3・11が人々の頭をよぎったばかりであった。

<川内原発再稼働阻止と伊方持久戦>

■伊方原発再稼働阻止の闘いは、伊方の家設立時に予期されていたものからすれば、一定持久戦の

様相を呈している。それは逆に当地でも川内原発再稼働阻止が重大課題として上ってきていることを意味し、川内一鹿児島島の闘いに連帯しながら全国の仲間と共にその闘いに参加し、つながっていくことが必要となる。当地での闘いもまた川内原発再稼働阻止の全国陣形の一部をなしているということだ。

■また伊方原発再稼働阻止が持久戦になるということは、伊方町―八幡浜市という八西地区での草の根からの運動が創り出されるべきこと、それを包み込む30km圏、50km圏の運動の連携が求められていくということである。この八西地区での草の根からの運動を創出していくべく、市議会に向けた署名活動や福島写真展や地域へのたゆみなきチラシ入れが取り組まれている。とくに福島写真展は、伊予市、八幡浜市、内子町、伊方町と巡回しながら、福島の実を今一度胸に刻み込み、大飯判決を広め、そして伊方―南予の人々の命とふるさとを守りながら脱原発の未来を考える自由な交



流の集いとして、静かに広がりを生み出している。それは次には、強制された原発依存を克服して、脱原発の地域社会へと向かう確信に裏打ちされた再稼働阻止の共同意志として形成されていくに違いない。

「これ以上海を汚さないで！」76 団体が「地下バイ」中止要請

要請書：母なる海への「地下水バイパス」という意図的な放射能汚染水の放出を中止してください（2014 年 5 月 20 日）

◇脱原発福島ネットワーク（佐藤和良）

5 月 20 日、東京電力は無責任な「地下水バイパス」を 5 月 21 日から実施するため、福島県や関係自治体、漁業関係者に対し説明を行った。

しかし、内容は、運用目標が 1 リットル当たりセシウム 134 は 1 ベクレル、セシウム 137 が 1 ベクレル、ストロンチウム等全 β が 5 ベクレル、そしてトリチウムは 1500 ベクレルという値であり、汚染されていない地下水ではなく、汚染水タンクからの漏えいにより汚染された地下水である。相変わらず、1 リットル当たりの放射能の濃度規制だけ、放出する汚染地下水の総量規制がないのだ。東電によれば、トリチウムだけで年間 0.5 兆ベクレルの放出量という計算になる。地下水とは名ばかりで、放射能汚染水を垂れ流す無責任な放出計画である。このような放出がいつまで、どのくらいの量が放出されるのか、全体像も一切明らかになっていない。濃度だけの基準では、いくらでも大量の放射能を放出することが可能になるのだ。しかも、市民には説明会さえ開かない。トリチウムは 1500 ベクレルという高い値でこのような汚染水が放出されることは、新たな国際問題に発展する懸念もある。

こうした状況下で、福島県内外の 76 市民団体は、「ストップ・汚染水」の声を挙げ、命の海へのさらなる放射能放出を止めたいと願い、東京電力に対し「地下水バイパス」実施に対する中止要請を行った。赤ちゃんを抱いたお母さんをはじめ市民団体の代表 14 名が、東京電力平送電所で『母なる海への「地下水バイパス」という意図的な放射能汚染水の放出を中止してください。』という要請書を読み上げて手渡し、それぞれが口々に「これ以上海を汚さないで！」と心からの放出中止の訴えを行った。

要 請 書

2014 年 5 月 20 日

東京電力株式会社 代表執行役社長 廣瀬直巳 様

母なる海への「地下水バイパス」という意図的な放射能汚染水の放出を中止してください

福島第一原子力発電所の過酷事故は、3 年以上の年月を経ても収束の見通しもなく、大量の放射性物質が環境中へ放出されています。このような状況の中で、報道によれば、東京電力が「地下水バイパス」を 5 月 21 日にも実施する旨、伝えられています。私たちは、この「地下水バイパス」が放射能を含み汚染された地下水である可能性が高いことから、決して外洋に放出することは許されないと考え、その実施中止を求めます。

福島第一原子力発電所では、1～3 号機の溶融した核燃料の所在もいまだにわからず、ただ冷却水を注入する作業が 3 年間行われてきました。そのために大量の高濃度汚染水が発生し、鋼板を

ボルトで固定しただけのフランジ型タンクに貯蔵されていました。昨年夏以降これら複数のタンクから数百トンの汚染水が漏洩し最大で 1800 ミリシーベルト/h という非常に高い汚染が確認されています。福島第一原発事故は国際原子力事象評価尺度ですでに「レベル7（深刻な事故）」、人類史上最悪の原発事故と評価されています。東京電力は、その同じサイトで新たに「レベル3（重大な異常事象）」とされるような汚染事故を重ねて起こしているのです。「地下水バイパス」によって放出される地下水は、フランジ型汚染水貯蔵タンクの近傍・下流に位置している 12 本の観測井戸からくみ上げられたもので、漏洩した高濃度汚染水による汚染の可能性が非常に高いと考えられます。

「地下水バイパス」という言葉も、事実を隠しています。実際、東京電力自身が設定している「地下水バイパス」の運用目標でも、1リットル当たりセシウム 134 は1ベクレル、セシウム 137 が1ベクレル、ストロンチウム等全βが5ベクレル、そしてトリチウムは1500ベクレルという値が設定されており、けっして汚染のない地下水ではなく、汚染されていることが前提になっています。さらにこのような放出がいつまで、どのくらいの量が放出されるのか、全体像は一切明らかになっていません。このような濃度だけの基準では、いくらでも大量の放射能を放出することが可能になり、特にトリチウムは1500ベクレルという高い値でこのような汚染水が放出されることは、また新たな国際問題に発展する懸念もあります。

福島第一原子力発電所の沖合、そして東北地方沖合の三陸沖は、世界三大漁場といわれる豊かな海です。この海の恵みは日本国民の宝であり、さらにこの恵みによって生きる漁業関係者等の生活の場でもあります。東北の真の復興を願う多くの人々にとっても、「地下水バイパス」というこれ以上の放射能汚染水の放出は、その願いを打ち砕きかねません。私たちは、このような「地下水バイパス」の実施を中止するよう、重ねて強く要請いたします。

脱原発福島ネットワークによる地下水バイパス計画の中止要請

- ・ 4月4日 中止要請 ブログ参照 <http://skazuyoshi.exblog.jp/21857547/>
- ・ 5月20日 中止要請 ブログ参照 <http://skazuyoshi.exblog.jp/22022862/>

（注釈）東京電力の地下水バイパス計画はこれらの中止要請にもかかわらず5月21日、強行に実施された。地下水バイパス一時貯留タンクからの排水（海洋放出）は5月に2回、6月初めに1回、計3回行われている。バイパス水排出にあたり東電・経産省が決めた「基準値」のトリチウム濃度は1500Bq/L、2011年事故まえの福島原発敷地周辺におけるトリチウム濃度は「0.5～2.9Bq/L」程度（※1）である。（※1：試料＝海水、平成20年11月 福島県原子力発電所安全確保技術連絡会による測定結果 <http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/42309.pdf>）（ニュース編集 千葉）

§ 5. ◆福島から◆ 福島原発避難の展望は

◇木幡ますみ（福島原発避難民）

●私たちの福島原発事故による避難は、3年を超えた。しかし実態は何も進展を見せないどころか、ますます未来が見えない、底無し沼に足を取られているようだ。最後に私達原発避難民は、虫虻（む

しけら）みたいに捨てられてしまうのかと、毎日眠れない夜を過ごしてられる方々が多い。又何も考えたく無い方々は、ただひたすら除染の仕事に身を投じ、大した防護もさせられず、ペラペラ

の紙のマスク一枚を与えられて、それも作業服は作業員の自分持ち。金は貰えると言っても、下請け作業員がほとんど。下請けだからと言って本社から引かれ、又下の下の下請けとなるとますます引かれ、本当に貰うべき金の何分かの一しかももらえない。それでもただひたすら除染の仕事をやり続ける。

●東北大地震により福島原発の事故が起きて、初めは皆心同じくして必死の思いで逃げた。しかし除染と言う仕事がぶら下がって来た時点で、双葉郡の町民と町長や町会議員、町役場職員の幹部達の間にもズレが生じて来た。各町民達は時間が経つにつれて、朽ち果てて行く自宅に絶望感を感じもう帰れないと思っているのにもかかわらず、各町村長、町会議員、役場の幹部職員達は必死に除染を訴えて、帰れないと思っている町民達を排除しようとしている。

双葉郡の自宅は放射線量が高く、震災後放置された家は壊れ、動物の糞尿でいっぱい。誰が除染して帰れると言うのか。原発もまだ収束はしていない。メルトダウンして、どうなっているかわから

ない、高線量の原発の内部に誰も入れない、いつなにが起きるかわからない原発の近くに帰れと言うのか。各町村長らの気は確かかと疑いたくなる。

除染によって利益が入るのは、除染業者、大手のゼネコン、そして地元の土建業界、復興だなんて言って土建業者達を肥え太らせているだけ。また、双葉郡の町村が無くなってしまったら、自分達町村長や町村議員達が失職してしまう。結局はつきり言ってしまえば、自分たちの私利私欲のために判断を誤り、住民を仮設住宅に追いやり、もしかしたら帰らなければならないという不安感を抱かせながら、この先の人生を過ごさせるつもりなのか。

●チェルノブイリでは、事故が起きた原発から30キロ以内には誰も住んではいけないという。それなのに日本においては、原発から10キロ以内に帰して、何もなかったように、生活を再開させようとしている。私たちは、住民を守れ、双葉郡に帰すな、生活の補償をきちんとしろと、双葉郡の町村、県、そして国に訴えて行きたい。住民をモルモットにするな、と私たち原発避難民は訴えて行きたいと思います。

§ 6. 4月26日・27日 京都での全国相談会の報告

◇寺田道男（ストップ☆大飯原発再稼働 現地アクション、反戦・反貧困・反差別共同行動 in 京都）

■東電の福島第一原発事故は、3年経っても収束にはほど遠い状態が続いている。それどころか汚染水問題一つをとっても、垂れ流しという最悪の状態にある。そして、このほど現場責任者の吉田所長（2013年死去）の政府事故調査・検証委員会での「聴取結果書（吉田調書）」から明らかになったことは、「原子炉は制御不能」と東電側が首相官邸に伝えていたこと。現場から逃げた9割の東電職員はどんな思いだったのだろうか。原発の実態はこれで明らかなのだが。しかし、安倍政権は何が何でも、この危険な原発を再稼働し、さらに海外へ輸出しようとしている。「日本の規制基準は世界一厳しい」「福島事故を経験した原発技術も世界一」という。だったら、早く収束させろ！

■そんな矢先の5月21日、「大飯原発の原子炉を運転してはならない」と福井地裁が画期的な原発NOの判決を下した。福島事故をふまえて「大

飯原発は、地震の際の冷却機能と放射線物質を閉じ込める構造に欠陥がある」と認め「原発の持つ本質的な危険性に楽観的すぎ、安全技術や設備は脆弱だ」と判断した。大飯原発の運転差し止めを求めた、この訴訟判決を抛りどころに、何としても「原発のない社会」を実現したいものだ。

■私たちは、この判決のおよそ1カ月前の4月26日、27日の両日、京都で再稼働阻止全国ネットワークの全国相談会をひらいた。とりわけ鹿児島・川内原発の再稼働の動きを全国の仲間の力で止めようというもの。関西の私たちには福島原発事故以後、唯一、大飯原発を再稼働させてしまった苦い経験から、川内原発と向き合う仲間に、強い連帯の意志を伝えたいと、初日の26日には関西の仲間呼びかけて「ストップ！原発再稼働 関西のつどい&全国交流会」とした。大阪をはじめ関西の仲間の多くが、すでに別集会を抱えており、

- 3月13日 原子力規制委 定例会見 速記録 <http://www.nsr.go.jp/kaiken/data/20140313sokkiroku.pdf>
 (川内原発の審査を優先させる決定について)
- 5月2日 原子力規制委 定例会見 速記録 <http://www.nsr.go.jp/kaiken/data/h26fy/20140502sokkiroku.pdf>
 (いくつかの原発訴訟に関して委員長の見解)
- 5月21日 原子力規制委 定例会見 速記録 <http://www.nsr.go.jp/kaiken/data/h26fy/20140521sokkiroku.pdf>
 (「火山影響評価ガイドをめぐる規制委の認識について」)

★再稼働審査、原子力防災関連のニュース

- 3/13 ロイター「規制委が九電川内原発の優先審査決定、再稼働1番乗りの公算大」
<http://jp.reuters.com/article/topNews/idJPTYEA2C00X20140313>
- 3/13 東洋経済 ONLINE「川内原発の再稼働一番手が有力に 審査加速の圧力を受けた規制委の苦肉の策-」
<http://toyokeizai.net/articles/-/32910>
- 3/14 南日本新聞 社説「川内原発審査、地元が納得する判断を」
http://373news.com/_column/syasetu.php?ym=201403&storyid=55403
- 3/17 沖縄タイムス 社説「[川内原発優先審査] 再稼働の条件は整わず」
<http://www.okinawatimes.co.jp/article.php?id=64912>
- 3/26 日刊ゲンダイ「再稼働第一号「鹿児島・川内原発」は日本一危険だ」
<http://nikkan-gendai.com/articles/view/newsx/148947>
- 4/3 NHK WEB「原発周辺の自治体 原発再稼働に対し主張強める」
 (<http://saikadososhinet.sakura.ne.jp/ss/archives/4960>)
- 4/8 HUNTER「川内原発安全審査の茶番 九電が「活断層調査」の誤り否定」
<http://hunter-investigate.jp/news/2014/04/post-475.html>
- 4/14 東京新聞「審査大詰め川内原発 巨大噴火を過小評価」
<http://www.tokyo-np.co.jp/article/tokuho/list/CK2014041302000152.html>
- 4/30 オルタナ「川内原発の火山影響評価で政府「有識者会合と安全審査は別」」
<http://www.alterna.co.jp/12914>
- 5/9 IWJ: 川内原発に次ぐ優先審査の体制「その時の状況を見て検討する」～原子力規制庁定例ブリーフィング
<http://iwj.co.jp/wj/open/archives/138798>
- 5/14 南日本新聞「川内原発再稼働阻止へ仮処分申請 30日に原告団」
<http://373news.com/modules/pickup/index.php?storyid=56843>
- 5/16 HUNTER「原発避難計画 論じるナンセンス」 <http://hunter-investigate.jp/news/2014/05/post-492.html>
- 5/30 ロイター〔焦点〕「川内原発審査で火山噴火リスク軽視の流れ、専門家から批判」
<http://jp.reuters.com/article/marketsNews/idJPL3N0OG1EW20140530>
- 6/2 沖縄タイムス 社説「原子力規制委人事案、独立性に疑問符が付く」
<http://www.okinawatimes.co.jp/article.php?id=71467>

★3月24日に原発立地自治体住民連合が開催した院内集会の資料「原発立地の自治体議員によるプレゼンテーション」(印刷物/カラー)をご希望の方は事務局までご連絡ください。1部300円(送料別) info@saikadososhinet.sakura.ne.jp

★原発立地自治体住民連合が日本政府に対し提出した公開質問状について <http://saikadososhinet.sakura.ne.jp/ss/archives/4392> (公開質問状7項目、賛同議員リスト)

★小冊子の紹介 『川内原発直近の巨大活断層と幾度も襲った火砕流-川内原発の再稼働はこれで消える-』

制作 反原発・かごしまネット 2013年6月2日発行 学習用資料(カンパ100円) A5判 15ページ 問い合わせ 〒892-0873 鹿児島市下田町292-1 反原発・かごしまネット 事務局 TEL 099-248-5455 FAX 099-248-5457 メール info@nanpou.com



『原発再稼働 絶対反対』 - 再稼働阻止全国ネットワーク編 -



(800円+税)
出版：金曜日

福島原発事故は収束に向かうどころか、汚染水漏れ問題は深刻化し避難住民の帰還にも目処が立っていない。ところが、安倍政権は原発廃炉を求める市民の声を無視し、再稼働を推し進めようとしている。そんなことは絶対に認めないと、原発再稼働阻止闘争をしている全国の団体が手を携え、ネットワークをつくった。怒りの声、さまざまな運動などを現地から伝える。

【もくじ】

- まえがき ●現地からの報告 (16) 泊、六ヶ所、東通、女川、福島、柏崎刈羽、東海第二、横須賀原子力空母、浜岡、志賀、敦賀～大飯、伊方、玄海、川内、島根、大間 ●「再稼働して自殺しなさい」 広瀬隆 ●再稼働のための「原子力規制委員会」 天野恵一
 - 日本の原子力発電所一覧 ●再稼働阻止全国ネットワーク連絡先
- お求めは info@saikadososhinet.sakura.ne.jp までご連絡下さい

大好評発売中

原発 避難計画の検証

このままでは、住民の安全は保障できない

福島原発事故後の避難の実態をふまえ、
交通工学的な観点から全原発を検証。その結果、
住民の被ばくを避ける現実的な時間内で
避難することは、全原発で不可能だとわかった!

環境経済研究所代表
上岡直見〔著〕



(1800円+税)
出版：合同出版

【もくじ】

- ◎はじめに ◎第一部 避難計画の検証 第一章 福島での避難実態 | 第二章 防災計画と避難の考え方 | 第三章 避難に関する問題点 | 第四章 交通工学から避難を考える | 第五章 これから始まる「最悪」シナリオ ◎第二部 各原発の避難の分析 柏/東通/女川/福島第一・第二/東海第二/柏崎刈羽/浜岡/志賀/敦賀・もんじゅ・美浜/大飯・高浜/島根/伊方/玄海/川内
- ◎チェックリスト あなたの町の避難チェック ◎あとがき

お求めは 合同出版株式会社まで 電話 03-3294-3507・FAX 03-3294-3509
全国書店または Web から求めいただけます
http://www.godo-shuppan.co.jp/products/detail.php?product_id=415

全国原発再稼働を阻止しよう！

一現地闘争に参加する、交通費基金カンパを一

私たちは、①福島から現地へ、②現地から他の現地へ、③そして東京など都市部から現地へかけつけ、地元の闘いと一体となって再稼働を阻止する闘いをこれからも継続します。2013年9月15日以降、再び「原発稼働ゼロ」となりました。わたしたちは永遠の原発ゼロを求めて「再稼働の嵐」に抗する広く強い行動を展開していくために基金300万円をめざし引き続きご協力をお願いいたします。

口座記号 00110-0-688699 加入者名 再稼働阻止全国ネットワーク
備考に「交通費基金カンパ」とご記入ください。

★★★再稼働阻止全国ネットワーク ホームページ をお役立てください★★★

<http://saikadososhinet.sakura.ne.jp/>

・再稼働阻止に参加する団体・グループのさまざまな活動について紹介しています

・「伊方の家」通信、「川内の家」通信にご注目を！

<http://saikadososhinet.sakura.ne.jp/ii/>

<http://saikadososhinet.sakura.ne.jp/sd/>

・再稼働問題をはじめ、核燃サイクル、処分場問題、原発輸出などに関する報道、ニュース記事を随時紹介しています。

再稼働阻止全国ネットワーク

Home 結成集会 設立までの経過 福島県の情報 各地の情報 資料Box お問い合わせ NEWS 署名・賛同

新着情報(地域の活動、活動報告など) [-] 一覧を表示

- 05月31日掲載・・・【活動紹介】5月16日 薩摩川内市議会「原発対策調査特別委員会」の傍聴報告
- 05月31日掲載・・・第7回大間原発反対現地集会(7月20日)への参加 賛同のお願!
- 05月25日掲載・・・5月21日判決を迎えて(福井から原発をとめる裁判の会・原告)
- 05月25日掲載・・・【活動紹介】5月23日(金)シンカン行動100回日に参加500名 関電申入れと6月の行動予定について
- 05月14日掲載・・・5/14(水)全国一斉「規制委」抗議行動の申入書、抗議書など
- 05月13日掲載・・・PressRelease(5/13):「大事故が起り得ることを知りながらの原発再稼働」は無責任極まりない姿勢(原発立地自治体住民連合)
- 05月05日掲載・・・【署名にご協力ください】福島も怒っている! 火山リスク無視の川内原発再稼働は許しません!
- 05月01日掲載・・・[再掲]抗議ハガキを出そう! 原子力規制委員会は再稼働推進機関です!

◆「原発立地自治体住民連合」についての統括は、「全国共通の情報」ページからご覧ください

● 日程のお知らせ

- 7月20日(日)第7回 大間原発反対現地集会を応援しよう!
- 6月13日(金)川内原発ストップ再稼働! 鹿児島県庁へ(主催:ストップ再稼働! 3.11鹿児島集会実行委員会)

● 川内原発関連ニュースまとめ

再稼働阻止ネット加入はこちらをクリック【サポーター募集中】

side menu

- お問い合わせ
- 現地行動のための交通費基金カンパ
- 再稼働阻止ネットNews
- 署名・賛同
- 資料Box

◆サポーター募集中 個人年会費 3,000 円、団体年会費 5,000 円

口座記号 00110-0-688699 加入者名 再稼働阻止全国ネットワーク

通信欄に、個人サポーター/団体サポーター/カンパ のいずれかと、お名前・連絡先(住所、電話またはメールアドレス)を添えてお申し込み下さい。

◆問合せ：〒101-0061 東京都千代田区三崎町 2-6-2 ダイナミックビル 5F たんぽぽ舎気付 再稼働阻止全国ネット事務局 TEL 070-6650-5549 FAX 03-3238-0797 (再稼働阻止全国ネットワーク宛と明記) メール info@saikadososhinet.sakura.ne.jp、HP <http://saikadososhinet.sakura.ne.jp/>

◆再稼働阻止全国ネットワーク NEWS 編集担当：寺田道男(京都) 海棠ひろ 千葉澄子 天野恵一

※原発再稼働問題にとりくむ全国各地の情報(市民団体の活動レポートや新聞記事、自治体の動きなど)をお寄せ下さい。メール送付先 report@saikadososhinet.sakura.ne.jp